



～ 大腸癌と乳癌 ～

《 はじめに 》

現在、日本人の死亡原因の一位は悪性新生物(いわゆる癌)です。その次に心疾患、脳血管障害と続きますが、医学が進歩した現在もまだ癌の代表的な治療法は手術です。いずれは薬で治せる時代も来るのでしょうか、手術により癌を根絶やしにすること(根治術)ができるかできないかがその患者様の予後を左右します。特に近年、食生活の欧米化が一番の原因と言われている大腸癌や乳癌の増加が目立ちます。そこで今回は大腸癌、乳癌について簡単にお話させていただきたいと思ます。



後藤 秀樹【外科部長】

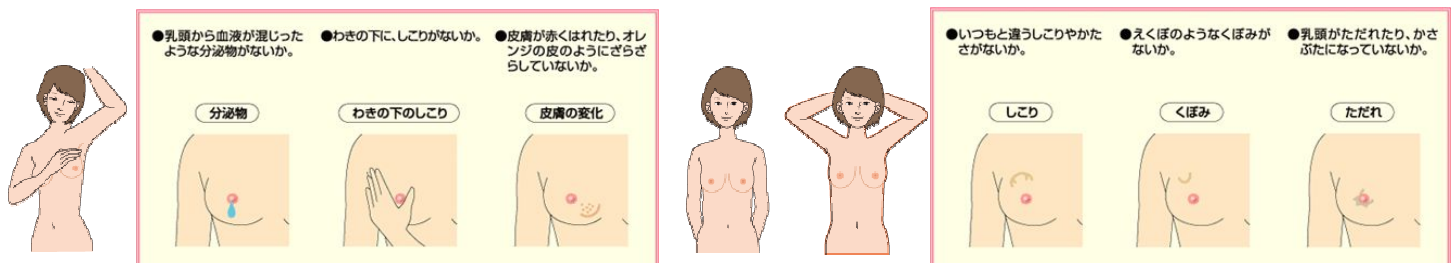
《 大腸癌について 》

大腸癌はなかなか特有の症状がないのが特徴です。急な便秘や下血(肛門からの出血)などの症状が出てからでは遅いのが現実です。何とか胃癌のように早期発見できれば、内視鏡で切除することも可能ですし、腹腔鏡というお腹に小さな穴を開けて大腸癌を取ることも可能です。健康診断では便潜血を調べていますが、大腸癌が必ずしも出血するとは限りません。症状がなくても血のつながった家族に大腸癌の方がいる人や、大腸ポリープがあるとされた人(特に腺腫という、大きくなったら先端が癌化する可能性のあるポリープ)、あとはp53という遺伝子異常の検査で陽性になった人は年に一回は大腸内視鏡検査をしましょう。ポリープを取ったら癌だったけど、内視鏡で取りきれたと言う方も年間数人はいらっしゃいます。検査は大腸の中をきれいにするため下剤を内服するのが大変ですが、麻酔をして検査するので、痛みなどはありません。ポリープなどがあればその場で切除しますので一泊以上の入院が必要ですが、何もなければその日に帰れます。

《 乳癌について 》

乳癌は自分で見つけることができる数少ない癌の一つです。しかしながら日本人女性の癌死亡の原因として一位となっています。

なかなか乳癌を触ったことがある人の方が少ないので、触ってもわからないと言う人が多いのが現状です。若い方でも乳腺が脂肪に置き換わって柔らかい方であれば触れば気付くことが多いのですが、乳腺がそのまま残っていて硬く触る方(乳腺症と言われる方)は、なかなか癌が小さいうちに発見することは難しいです。一般に40歳以上の未婚者、初潮の時期が早く(11歳以前)、閉経年齢が50歳以上の方、出産経験がないか、初産年齢が30歳以上の方、標準体重より20%以上の肥満の方、乳癌や良性乳腺疾患の既往がある方、家族に乳癌になった人がいる方などは乳癌になる可能性が他の方より高いと言われています。乳癌は一般的にどんどん大きくなるものは少なく、2cm以下で転移のないものを早期乳癌と呼んでいるぐらいですから、まずは自分で触ってみることが大切です。2cm以下で見つかれば、90%以上は完治と言われています。あまり毎日触ってもその変化に気付くのはかえって難しくなります。月に一回、生理が終わってから10日目ぐらいにお風呂場で、石鹸をつけて三本の指の腹で『の』の字を書くように自分で触ってみてください。あとは鏡に向かって左右差やくぼみ、ただれ、発赤、乳頭分泌などがないかチェックしてください。自分の乳腺の凹凸を憶えることが大切です。癌が大きくなならない限り痛みがくることはめったにありません。何か前と違うな、と思ったら外科受診をお勧めします。



前回までの内容でお話したようにC型肝炎ウイルス感染者は日本では 200 万人存在すると言われていますが、その多くは感染の事実を知らないまま経過し、肝硬変にまでなっても気づかない場合が見られます。肝臓は沈黙の臓器と言われ、そのほとんどが無症状のまま経過します。ただひとたび症状が出始めると下記に示すようないろいろな病状がでてきます。

①肝機能低下

肝臓の働きについて葉～その3～でお話しましたが、肝臓には500を超える機能を有しています。その肝機能が低下すると低蛋白血症による腹水、むくみ、解毒機能低下による黄疸、肝性脳症などが見られます。肝性脳症はアンモニアの分解能の低下により脳神経が侵され起こる病態です。まれですが昏睡にいたることもあります。その他一般的には食欲不振、体重減少、こむら返りなどが起こります。血液検査上AST (GOT)、ALT (GPT)は低値なことも多く、またコレステロールの減少、血小板の減少も見られます。

②食道静脈瘤 (しょくどうじょうみゃくりゅう)

肝臓には動脈・門脈と2本の血管が流れ込んでいます。しかし肝臓が硬くなってくるとこの血流に影響が出てきます。門脈は動脈に比べ圧が低いいため血流障害が起こります。そのため門脈の圧力が高まり、門脈圧亢進症という状態になります。その結果脾臓が腫れます。脾臓が腫れることにより血小板が減少します。また門脈の圧力が高まることで血液の流れが変わってきます。門脈から肝臓を介さないで心臓へ戻る血管(バypass)が形成されます。この血管は元々食道・胃上部の細い血管(～0.5mm)で、ここに多量の血液が流れ、徐々にバypassの血管が太くなってきます。食道の細い静脈はこぶ状になり最終的には破裂して出血し、吐血・下血する病気です。破裂した場合、時には出血性ショック状態になることもあります。食道静脈瘤の有無を確認するには上部消化管内視鏡が必要です。現在食道静脈瘤の治療には主に上部消化管内視鏡による治療が行われています。特に破裂する前に予防的に行うのが理想的です。また吐血した緊急な場合にも上部消化管内視鏡で応急処置が可能です。

③肝細胞癌

肝細胞癌の原因はおもに肝炎ウイルスの持続感染です。肝炎ウイルスの持続感染によって、肝細胞で長期間炎症と再生がくり返され、遺伝子の突然変異が積み重なり、肝細胞癌へ進展すると言われていています。肝細胞癌の約80%にウイルス性肝炎が合併しています。したがって肝炎ウイルスに感染した人は、肝細胞癌になりやすい「肝細胞癌の高危険群」と言われています。また一般にB型肝炎に比べC型肝炎は高齢者や肝機能が低下した方に起こりやすく、また多発・再発する傾向が高いと言われていています。

症状：一般に肝臓は「沈黙の臓器」といわれ、初期の肝臓癌も無症状です。進行してくると腹部膨隆、腹部腫瘍、腹痛などの症状がでてきます。

診断：診断は、血液検査(腫瘍マーカー)と画像診断法により行われます。

※画像診断は診断法の中でもっとも有用です。おもに腹部超音波と腹部CTが行われていますが、時に腹部MRIをおこなうこともあります。

※血液検査(腫瘍マーカー)には主にAFPとPIVKA-IIの2種類があります。

※その他肝臓の腫瘍部分に針を刺して少量の組織片をとり、顕微鏡で調べる肝腫瘍生検を行うこともあります。

治療：他の癌に比べ一般的に肝細胞癌の治療は困難です。その理由として①肝臓が肝硬変または肝硬変に近い状態で、肝機能が低下している場合が多い②多発しやすいこと、また適切な治療を行っても原因(肝炎ウイルス)が残っている限り再発しやすいということです。肝細胞癌の治療は以下のとおりです。

a.外科的治療(肝切除術)

原則的には肝機能が比較的良好でかつ腫瘍数が単発から3個までが適応です。その他、肝外の突出した癌なども適応となる場合があります。

b.経皮的治療

通常エコーを用いて肝臓内の腫瘍を針で刺して治療する方法です。

エタノール注入法(PEIT)は100%のアルコールを注入し、ラジオ波熱焼灼療法(RFA)は電磁波で腫瘍を焼き切ることで治療します。現在ラジオ波熱焼灼療法がこの治療では主流となっています。また比較的短期間の入院で治療が行えます。いずれも径が3cm以下のものが適応となりますが、それ以上の大きさの腫瘍に対しても行うことがあります。

c.カテーテル治療(肝動脈塞栓術、肝動注化学療法)

直径約1mm程度のカテーテルを使用し、肝臓の動脈より癌に直接薬を注入する方法です。

肝硬変または肝硬変に近い状態となっても悲観することはありません。とにかく初期の状態で見えればその分治療も効果的です。定期的な通院、検査を受けて下さい。

※次回はC型肝炎に対する治療(主にインターフェロン治療)についてお話しします。

健康フェスタ

好天に恵まれた 7月 27日（日）、「メタボリックシンドローム」をテーマに



第2回健康フェスタ



が開催されました。

来場者の皆様には血圧や体脂肪・腹囲測定などの健康チェックを体験していただき、健康講座では乳がん検診やたばこの有害性、肥満になる仕組みや肥満と深く関係がある物質について、計 4 回の講座を行いました。

今年の催し物のなかでも「脱！メタボ講座」では、X線で撮影した外科部長・後藤先生自身の体の断面図（腹部CT）を使った説明が「非常に分かりやすい」と評判で、ユーモアを交えた解説に会場から笑い声がおきていました。

その他にも、河合先生の肝炎のインターフェロン治療の説明ビデオ放映や職員企画による骨密度測定、減塩味噌汁試食、リハビリ体操、放射線検査室見学、臨床検査室見学などの催しで賑わいをみせており、血管年齢測定やネイルケア・ハンドマッサージには整理券を求める行列ができたほどでした。

お子様達向けの催しでは、スーパーボール作り、白衣を着ての記念撮影、放射線科による来場者限定カードの配布が行われました。おみやげのナースキャップをかぶった女の子たちや、風船やカードを手にしたニコニコ顔の男の子たちがたくさん見られました。

会場では一部混雑した箇所がありましたが、平日の蒲原病院とはちがう和やかな雰囲気にも包まれて、ピアノの音色を楽しんでいただきながら、大盛況のなか無事終了する事ができました。



【健康フェスタの風景】



これからも地域のみなさまに愛される病院を目指して、健康フェスタや院内コンサートなど、様々な文化活動を続けてまいります。

健康セミナー

7月 12日、富士市との合併に先がけて富士市民を対象とした健康セミナーを富士市健康福祉課に協力を頂き、同市本市場のフィランセ西館で開催しました。当日は 30 度を超える暑さの中、約 50 人の市民の方々が参加されました。

セミナーでは胃がんや胃潰瘍の原因となるピロリ菌について小河原 忠彦外科部長をはじめ、検査技師や薬剤師がそれぞれの立場から検査や除菌について説明をしました。

セミナー最後の質疑応答の時間では、普段なかなか聞く事の出来ない検査や治療についての疑問を直接聞けるとあってたくさんの方々が活発に質問されていました。

蒲原病院ボランティアの会では昨年度から、富士川町や由比町等の公的施設を活用して健康セミナー等を開催しています。今回は合併に先がけて富士市の協力の下、セミナーを開催しましたが、合併後も健康セミナー等を通して病気に関する知識の周知や病気予防への意識を地域住民の皆様を広めていきたいと思っています。



【健康セミナーの風景】

旬の食材を使った病院の献立

☆朝顔御膳☆ (7/15(火) 昼食)

- ・米飯
- ・鰯のマリネ
- ・夏野菜の冷やし鉢
- ・ほうれん草卵巻き
- ・オクラの梅肉和え



オクラ・なすなどの夏野菜やお酢を使い、色彩鮮やかでさっぱりとしたお弁当でした。

☆オクラのネバネバ成分は水溶性食物繊維のペクチンと多糖類のガラクトマンなど、胃粘膜の保護や整腸作用、コレステロールの吸収抑制や排出、血糖値の上昇抑制など、様々な働きがあるとされています。カルシウムやビタミン類、カリウムなども含まれており、暑い季節を乗り切るスタミナや抵抗力を高めるのにとっても良いといわれています。(管理栄養士)

掲示板

医事課からのお知らせ

皮膚科につきましては、医師の産休に伴い、8月14日から非常勤医師による診療（毎週水曜日のみ）となっております。ご迷惑をお掛けしますが宜しくお願い致します。

医事課からのお願い

保険者から、資格喪失後の保険証使用による診療報酬明細書（レセプト）を戻されるケースが多く発生しております。保険証が変わられた場合は受診の際に総合受付へ保険証の提示をお願いいたします。また、変更が無い場合につきましても**毎月保険証の確認をさせて頂いております**ので、ご協力をお願い致します。

これ知っとこ！健康クイズ

Q1 食べてすぐ運動すると横腹が痛くなるが、次のうちの臓器が痛む？

- ①すい臓 ②脾臓 ③肝臓

Q2 俗に『生き腐れ』と言われる魚は次のうちどれ？

- ①サバ ②イワシ ③サンマ



脾臓の主な機能は、赤血球の貯留、古い赤血球や血小板の破壊、リンパ球の生成などです。

運動時筋肉を動かすには酸素などが必要です。その酸素などを運んでいるのが血液で、脾臓が血液循環を補うために活躍することになります。脾臓が体内の血液量を増やすと脾臓自体はしぼり出したことで縮んでしまい痛みの原因となります。

Q1の答え②、Q2の答え①



共立蒲原総合病院

住所：静岡県庵原郡富士川町中之郷 2500-1

病院：TEL 0545-81-2211 FAX 0545-81-2208

健診：TEL 0545-81-3325 FAX 0545-56-2333

URL：<http://www.kanbarahp.com/hospital/>

広報「蒲原病院」はホームページでもご覧になれます。

【アクセス】

JR東海道線富士川駅より 徒歩 15分

バス 2分

富士川SAスマートICより 車 5分